

健康万歩計は、西北五医師会が、皆さんが健康で元気に過ごすために必要な情報を提供し、ドクターからのアドバイスを紹介するコーナーです。



最も多いめまいの病気 良性発作性頭位めまい症

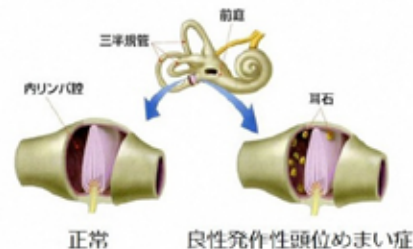
鈴木耳鼻咽喉科医院 院長 鈴木 健策 先生

めまいはその性状によって、回転性めまい（天井がぐるぐる回る）や動揺性めまい（身体がふらふらする）、血の気が引くような感じのめまいなどに分けられます。めまいを起こす病気は、内耳の病気や脳の病気など多種にわたり、内耳の異常が原因で起こるものが6割以上を占めています。内耳性めまいの疾患には、良性発作性頭位めまい症、メニエール病、突発性難聴、前庭神経炎、聴神経腫瘍などがあります。今回は最も多い良性発作性頭位めまい症について解説します。

内耳は側頭骨（頭蓋を構成する骨の1つ）に埋め込まれている器官で、聴覚に関わる蝸牛（かぎゅう）と、頭の傾き具合の感知器である前庭（ぜんてい）、および頭が動いた方向とその加速度の感知器である三半規管（前半規管、後半規管、外側半規管の3つ）で構成されており、内部はリンパ液で満たされています。その中央部にある前庭には耳石という物質があり、これが重力によって動くことで、頭の傾き具合を感知します。この耳石の破片が半規管の中に入り込んだために起こるめまいがこの病気です。どの半規管に耳石が入りこむか、さらにその耳石が浮遊しているのか細胞に付着しているのかによって、めまいの起こり方に違いはありますが、共通しているのは頭の位置によってめまいが変化することです。また内耳の病気ではありますが、難聴や耳鳴などの聴覚に関する症状がありません。この点はメニエール病と異なります。多くを占める後半規管の浮遊耳石では、ベッドでの寝起きなど、急に頭の位置を換え

た直後に回転性のめまいが出現し、吐き気を伴うこともあります。そのまま頭を動かさないでいると、気持ちの悪さは続いていても回転は30秒以内に収まり、また動くともめまいが再開し、我慢して動いているうちにめまいが軽くなってくるとというのが最も典型的なパターンです。傾向として、デスクワークなど普段あまり頭を動かさない生活の人、枕が低く、寝相がよい人、骨粗しょう症の人に多いといわれています。聴力検査で難聴の存在を除外し（難聴に気づいていない場合がある）、頭位による異常な眼球運動を確認することにより診断します。その治療ですが、検査で耳石の存在位置が確認できた場合には、その場で耳石を元の位置に戻す理学的治療を行い、確認できなかった場合にはリハビリ運動を行います。この病気に対する根本的な治療薬はありませんが、めまい感を軽減する薬や吐気止めを処方することがあります。

以上、良性のめまいについての解説でしたが、もしも急なめまいとともに激しい頭痛、意識障害、ろれつが回らない、手足のしびれや麻痺が起こった場合には脳卒中の可能性があります。その時は迷わずに救急車を呼んでください。



救急医療当番医

診療時間 9:00~12:00

*受診前に必ず各医療機関に電話で確認してください。

日程	病院名	電話番号	消防署救急病院 紹介電話 34-4999
3月5日(日)	こどもクリニックおとも(鎌谷町163-1)	39-2151	
3月12日(日)	白生会胃腸病院(中平井町142-1)	34-6111	
3月21日(火)	田町小山クリニック(田町4-5)	34-3431	
3月26日(日)	増田病院(新町41)	35-2726	

人口のうごき

令和5年1月末 住民基本台帳 ()内は前月比

総人口…51,578人(-63人) 男…23,662人(-22人) 女…27,916人(-41人) 世帯数…25,615世帯(-16)